

D-TIMES

[dementia times]

Vol.5

認知症ケア委員会

研修からの帰還！

今年度、認知症介護実践者研修と認知症介護実践リーダー研修を又吉副主任と村山副主任が無事修了されました。

お二人へ研修より戻られた現在、どのような心境か伺って参りました。

高Ⅱ 高橋 又Ⅱ 又吉 村Ⅱ 村山 エⅡ 工藤

高Ⅱ 「認知症実践リーダー研修を修了して今後どのような認知症ケアを行っていきたいですか？」

村Ⅱ 「他の職員にも今回の学びを指導しながら認知症ケアの質の向上を図っていきたいと思います・・・」

高Ⅱ 「おう、頑張れよ！」

高Ⅱ 「認知症実践者研修を修了して今後どのような認知症ケアを行っていききたいですか？」

又Ⅱ 「利用者のためになるように頑張ります」

高Ⅱ 「うん！又吉なら大丈夫！俺も応援するから頑張ってね！」

エⅡ 「・・・」

汎用AI

MAKO Mk-II

ウチにも一台欲しい！

D-TIMES を定期購読ご希望の方は・・・

内線 310

“村山”まで!!

認知症川柳

「夜中だよ。」
「おはよう、良く寝た。」
今何時?」

ま



難聴と認知症

2017年7月国際アルツハイマー病会議において、9つの危険因子の一つに「難聴」が挙げられたそうです。その際「予防できる要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」という指摘がなされた。ただし先天性難聴や一側性難聴はこの限りではありません。近年の国内外の研究によって音の刺激や情報が少ない状態が脳の委縮や、神経細胞の弱まりが進み、認知症の発症に大きく影響する事が明らかになってきた。利用者さんと沢山会話しよう！

※バリデーション技法について



バリテーションって!?

・バリテーション(validation)とは「**検証・証明・承認・妥当性確認**」などという意味を持つ言葉で、様々な業界で使用されています。介護の現場では、認知症の方とコミュニケーションを取るための方法の一つとして活用されています。
介護業界における「バリテーション」とは認知症の方の言動や行動を意味のあることと捉え、認め、受け入れることをいいます。

～バリテーションの基本的態度～

傾聴する

・ただ「聞く」だけでなく、その奥のある気持ちに耳を傾け「聴く」

共感する

・認知症の方の感情が表れている部分(表情、姿勢など)を観察し、一致させる

嘘をつかない・ごまかさない

・主訴をつかもうとし、本人の感情にふたをせず向き合い信頼関係を築くようにする

誘導しない

・認知症の方の姿勢や歩き方、表情、呼吸まで一致させて、ペースを合わせる、誘導や強制をしない。

受容する

・現実に引き戻そうとせず、「あるがまま」を認めて、ご本人の世界に近づこう。否定厳禁。

認知症に関しての「困った・・・。」や「どうしよう・・・。」等、なんでもお話しがありましたら、各フロアの委員までどうぞ!!
東、西、ユニット、3F、身近な介護看護がお待ちしております。